

色丹島から持ち出された上武佐ハリストス正教会キリスト像

像・石碑等

キリスト像は、色丹島の信徒の一人であつた宮城県出身の山口末吉さんが色丹島の斜古丹にあつた正教会の十字架から取り外し、引き揚げ時に肌身離さず守り、中標津町の上武佐のハリストス正教会に納めたものです。



聖堂の正面、王門(聖堂と至聖所を隔てる扉)の上部に掲げられる約10cmの右手首から先が欠けた黄金のキリスト像。



村上 道子 氏

正教会を管理している釧路ハリストス正教会の内田司祭と数年前まで四十年以上にわたつてこの教会の管理をさしていた村上道子さんから、山口さんが引き揚げの際に証しがなければ信徒であることを信用してもらえないと心配し、この像と聖書を持ってきたことや、船の出港時間が迫るなか釘が一本外れず右手首が失われたと伝えられていることを教えてくださいました。

この右手首を失ったキリスト像からは、島を追われた信徒さんがどれだけの苦難の道のりを歩まれたのかが偲ばれます。



ハリストス正教会の外観



教会に収められているアイコン

中標津町の上武佐にあるハリストス正教会は、アイコン画家山下りん氏の描いたアイコンを見ることができ、ことでも有名です。アイコンとは正教会等に掲示されている宗教画で、キリストや聖人、祝祭の起源となる出来事を描いたものです。

明治期にロシアに留学し、アイコンを学びつつも西洋画の手法を取り入れた山下りん氏のアイコンは、美術的に高い評価を得ております。